

# 核心地域内指定ルート の現地状況

## 登山者の皆さんへ

指定ルートは、あらゆる場面において、自らの責任で安全を確保できる登山者だけが入山できる箇所、一般登山者向けのコースではありません。

下記事項に十分留意し、事故や遭難のないよう注意して入山して下さい。



### 【共通事項】

1 指定ルートは、いずれも既存歩道や関連ルートを経由して入山する奥地であり、日帰りできる箇所はごく一部に限られています。また歩道としての整備や標識の設置等は一切行われていないことから、危険箇所や迷いやすい箇所が数多くあります。

2 白神山地は地形が急峻で、絶えず崩壊等が発生しており、指定ルートにおいても融雪や豪雨のため落石や崩壊が発生している可能性があります。このため常に気象等の情報収集に努め、気象や現地の状況によっては速やかに引き返す心構えが必要です。

3 指定ルート内では携帯電話等はほとんど使用不可能です。また遭難した場合でもヘリコプターによる救助が困難な場所です。

4 指定ルートに入山するにはキャンプの装備、沢登りの技術、落石の危険性や地形図の判読能力、万が一事故が発生した場合のセルフレスキュー技術など、登山に関する高度な知識、経験、技術、体力、装備が必要とされます。

# 溪流ルート

**1** 溪流沿いのルートには大小様々な滝や淵、大転石の堆積、岩盤露出、落石崩壊箇所などが随所にあり、転落、転倒、落石などの危険箇所が数多くあります。ザイルやヘルメットが必要な箇所もあります。

●ルート6、8、9、10、14、19、20など

**2** 豪雨により溪流が増水した場合は、ルートの途中から安全に下山できるルートがほとんどないことから、予定通りに下山できないことが予想されます。

●ルート1~6、16~20など

**3** 溪流ルートでは小沢が複雑に枝分かれしています。このため、沢の選定を誤ると正規のルートを見失う危険性があります。

●ルート7、11、12、27など

# 山腹ルート

**1** 山腹のルートは、背丈を超えるブッシュで見通しの全くきかない箇所やルート跡が全くない箇所、平坦地のためルートを見失う危険性の大きな箇所があります。

●ルート21、25、26、27など

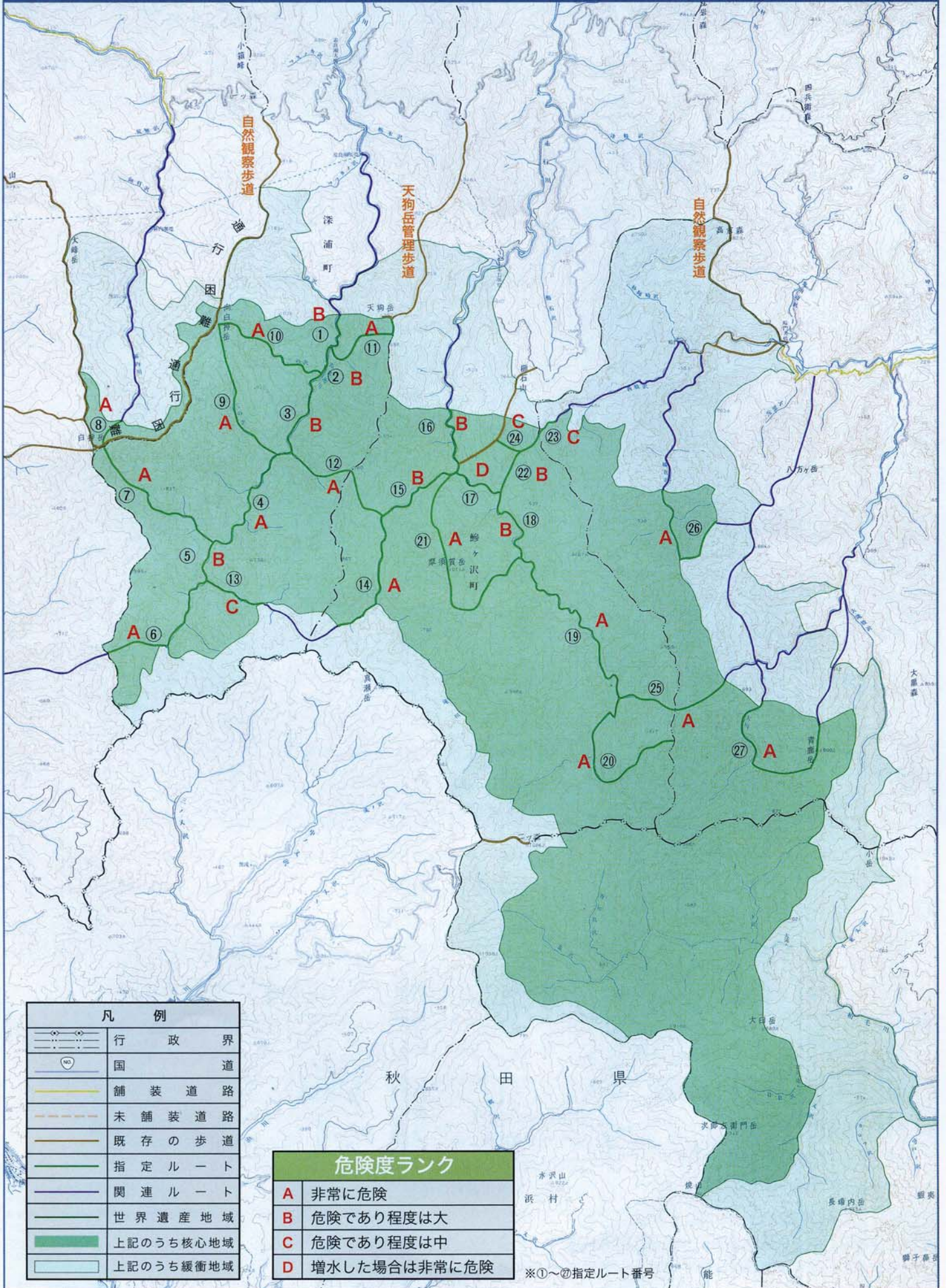
**2** 部分的に踏み分け跡の残る箇所もありますが、登山者等の入り込み状況によっては不明瞭となり、ルートを見失う危険性がある箇所もあります。

●ルート23、24など

白神山地世界遺産地域連絡会議

環境省東北地方環境事務所  
林野庁東北森林管理局・青森事務所  
青森県・青森県教育委員会  
秋田県・秋田県教育委員会

# 白神山地入山指定ルート 位置図



凡 例	
	行政界
	国 道
	舗 装 道 路
	未 舗 装 道 路
	既 存 の 歩 道
	指 定 ル ー ト
	関 連 ル ー ト
	世 界 遺 産 地 域
	上 記 の うち 核 心 地 域
	上 記 の うち 緩 衝 地 域

危険度ランク	
<b>A</b>	非常に危険
<b>B</b>	危険であり程度は大
<b>C</b>	危険であり程度は中
<b>D</b>	増水した場合は非常に危険

※①～⑳の指定ルート番号

# 指定ルート現地状況一覧表

ルート番号	延長(km)	ルートタイプ	流域区分	ルート危険度		ルートの状況
				ランク	危険度の高い調査項目	
1	0.8	溪流-1	追良瀬川	B	①②④⑦	起点にゴルジュ(渓谷)あり。ザイルのある巻き道あり。急傾斜で足場がよくない。
2	0.7	溪流-1	追良瀬川	B	②	通常は膝下程度の水深。転石あり。
3	2.2	溪流-1	追良瀬川	B	②④⑥⑦	露岩し、深淵の箇所があり。水深は腰下まで。
4	2.7	溪流-1	追良瀬川	A	②④⑦	露岩、深淵、ゴルジュが点在し高巻き箇所があり。滑りやすい。水深は股下程度だが増水時は非常に危険な箇所あり。
5	0.8	溪流-1	追良瀬川	B	②	起点に大きな深淵あり。高巻き道あり。
6	2.9	溪流-2	追良瀬川	A	①②③④⑤⑦	本流は穏やか。支流は大転石が渓谷に堆積。上流に黒滝があり巻き道があるが非常に危険。最上流部は猛烈な藪。
7	3.2	溪流-2	追良瀬川	A	②③④⑤⑦	支流が複雑に枝分かれし、非常に迷いやすい。高巻きの必要な滝もあり危険。最上流部は急勾配で猛烈な藪。
8	0.7	溪流-2	笹内川	A	③④⑦	大小の滝の連続。露岩して滑りやすい。転落の危険性大。ザイルを要す。上部は激しい藪。
9	3.0	溪流-2	追良瀬川	A	④⑦⑧	大小の滝の連続。ほとんど岩壁状態。岩登りの技術・装備が必要。
10	2.6	複合	追良瀬川	A	④⑦⑧	大小の滝の連続。ほとんど岩壁状態。岩登りの技術・装備が必要。
11	1.7	複合	追良瀬川	A	①②④⑤⑦	中流部は滝の連続で巻き道選定が難しい。上流部は支流のルート選定が難しい。最上部は激しい藪。
12	2.6	溪流-2	追良瀬・赤石	A	③④⑤	追良瀬川流域側は高巻きが必要な滝が数カ所あり。赤石川流域を含めて尾根越えのルート選定が難しい。
13	1.4	溪流-1	追良瀬川	C	⑥	勾配は緩く溪相は穏やか。増水した場合が危険。秋田県側から入りやすいルート。
14	2.8	溪流-1	赤石川	A	②	本流の滝川は大転石と深淵の箇所あり。支流の西の沢は急勾配で渓谷に転石が堆積。
15	1.8	溪流-1	赤石川	B	③④⑥	下流部に転石が堆積しているが勾配は緩い。崩壊地があり落石の危険箇所あり。
16	1.4	溪流-1	赤石川	B	⑦	勾配は緩いが露岩して滑りやすい箇所あり。水深の深い箇所もあり。
17	1.1	溪流-1	赤石川	D		川幅もあり特に深場もなく歩きやすいが。増水した場合は非常に危険。
18	1.9	溪流-1	赤石川	B	④⑦	露岩した深場があり、横ばい歩行の必要な狭い箇所があり。巻き道の選定が必要。
19	4.4	溪流-1	赤石川	A	④	下流に石滝、上流に魚止の滝があり。魚止の滝は落差もあり危険。ザイルを要す。
20	3.8	溪流-2	赤石川	A	①⑦	ルート中間に滝がありザイルを要す。上流部は滝の連続。ザイルを要す。
21	4.8	複合	赤石川	A	②⑤	大半が猛烈な藪。平坦な箇所もあり非常に迷いやすい。下りは特に要注意。
22	1.1	溪流-1	赤石川	B	⑤	滝の連続。巻き道があるが判然としない。岩盤で滑りやすい。上流部は歩きやすい。
23	0.9	複合	赤石・暗門川	C	②⑤	峠付近のルートが不明瞭。赤石川流域側は利用が少ないとルートが判然としない可能性あり。
24	0.4	山腹	赤石川	C	①	ルート途中で急勾配箇所あり。利用が少ないとルートが判然としない可能性あり。
25	2.5	複合	赤石・大川	A	②③⑤⑦	峠付近がルートが不明瞭で迷いやすい。特に大川流域側は急傾斜で滑りやすく非常に危険。
26	2.6	複合	暗門川	A	②④⑤⑦	溪流部は大小の滝があり巻き道も岩盤で危険。溪流上部から尾根は藪こぎ。下りはルートが非常に分かりにくい。
27	3.5	複合	大川	A	②③⑤	本流は滝、ゴルジュ、落石崩壊地があり。上流部は滝や崖の支流があり、下りは特に危険。尾根は激しい藪。

(注)延長は2万5千分地形図から計測

## 凡例-1

### ルートタイプ

溪流-1	流水のある溪流
溪流-2	沢源流部までを含んだ溪流
複合	溪流と山腹の複合

## 凡例-2

### 危険度ランク

A	非常に危険
B	危険であり程度は大
C	危険であり程度は中
D	増水した場合は非常に危険

※調査項目ランクの最大ランクを採用

## 凡例-3

### 危険度の高い調査項目

①	ルートの幅・勾配	⑤	ルート判然度
②	歩行障害物	⑥	水深
③	落石	⑦	露岩
④	転落・滝	⑧	ザイル等の必要性

※その他 ここに記載した内容は平成13・14年度の調査時点のものです。

[注1]危険度ランクは、各ルートの区間のみを評価したものであり、歩道起点からルートに至る途中の状況は考慮していない。

[注2]危険度ランクは、無積雪期で岩登り等の装備を用いず、気象条件等も良好な状況を基準にランク付けしたものの。